



優  
秀  
賞

下妻市立下妻中学校 三年

世界についてもっと知ろう

なかやま  
中山 いろは

極寒の森林地帯で立ち往生し、テントを張って暮らす

人々。街角で地面に横になって一夜を過ごす家族。これらは、故郷を追われ、国外に逃れようとする人々の現在の姿です。昨今のロシアのウクライナ侵攻によって、多くの人々が難民になりました。日本でも受け入れが各地で進み、大きな注目を集めています。現在、世界ではその他に、五十六の国や地域で紛争が起こっているといわれています。みなさんは世界の紛争や難民問題についてどのくらい考えたことがありますか。

難民は、今年五月、世界で一億一千万人に到達しました。これは、第二次世界大戦後の最多の数です。私達が美味しい食事をとったり安らかな睡眠をとったりしている間にも、安全な場所を求めて故郷を離れざるを得ない人たちが

は確実に増え続けているのです。

その現実を前に、「何か支援ができないか。私にできることはないか。」と、思う人はいると思います。みなさんは支援を考えたとき、どのような機関を思い浮かべますか。「UNHCR」という機関を知っている人はいますか。国連難民高等弁務官事務所のことです。日本人として、そして女性としても初の難民高等弁務官、緒方貞子さんを知っている人は、多いのではないのでしょうか。難民の食糧支援・人道支援に尽力されました。「UNHCR」は難民全員を支援対象にした機関です。私は毎月、「UNHCR」の支援活動に協力をしています。すると、定期的に活動報告メールを受け取ることができます。紛争地域の情勢や支援を受けた人々の約四十パーセントは十八歳未満の子供であると

示されていました。

私はガールスカウトでの活動をきっかけに、「UNHCR」を知り世界の情勢を目の当たりにしました。いつ爆弾が落ちてくるかも分からない状況で、崩れ落ちた家で支援を待つ人々。電気や水道などのインフラが停止し、雨水で体を洗う人々。そして、そのような状況であっても、新しい命が誕生し、喜び合う人々……。私達の生活とあまりにもかけ離れた生活が、そこにはありました。日本は、温かい食事を気軽にどこでも食べることができます。水道や電気は整備され、安全な生活を送ることができます。そして私達には、学習環境が保障されています。私達は、この恵まれた環境であるにも関わらず、その環境に満足せず、時にはこの環境を放棄すらしていないでしょうか。

私は、世界の地域紛争や難民問題について、私と同世代の人にも知ってもらうことが大切だと思います。現代社会では、インターネットを活用することで、たいていのことを知ることができます。しかし、「知ろう」という思いがなければ、世界の状況は知ることができません。世界の地域紛争や難民問題にもっと目を向け、耳を傾けてみてください。他の国や地域に興味をもってみてください。私達と同世代の人々が、住む場所や家族を失い、安全な場所を求

めて苦しんでいる国や地域があることを知り、その解決に向けて考えていく必要があります。私達一人一人の行動が、地域紛争などから苦しむ人を救うことができると私は思います。

